

名古屋オルガンの秋

Magnificat anima mea Dominum

私の魂は主をあがめ

2023

11.5.



典礼聖歌と聖母賛歌 ソプラノとともに

高田三郎 生誕110周年

Soprano & Organ

高田三郎

「聖母賛歌」より「しあわせなかたマリア」「母は立つ」

「典礼聖歌」より「平和の祈り」 他

雅楽の旋法による聖母賛歌

Th. マイヤー＝フィービッヒ

ソプラノとオルガンの為の「宗教的小協奏曲」

Benedicam Dominum 主をたたえ (初演)

Organ solo

高田三郎

五常楽による瞑想曲 他

ソプラノ 大森マイヤー・ユリカ



12.3.



わたしの魂は主をあがめ

J. S. バッハの作品を中心に

J. S. バッハ

待降節のコラール作品集

幻想曲とフーガ短調 BWV 542

マグニフィカトによるフーガ BWV 733

われは神より離れまじ BWV658

D. マーニケ 「われは神より離れまじ」によるコラールパルティータ 他

決まった
入場料は
設定して
いません

(日) 15:30-16:30 カトリック五反城教会

プログラムは予告なく変更になることがあります
諸事情によりコンサートが中止になる場合はホームページ<http://organaki.exblog.jp>でお知らせします

カトリック五反城教会
中村区二瀬町27

地下鉄東山線「岩塚駅」
2番出口より徒歩5分

主催：「名古屋オルガンの秋」実行委員会
協力：カトリック五反城教会 二宮音楽事務所

お問合せ先：二宮音楽事務所052-505-0151
mail@aya-yoshida.de

オルガンの秋ホームページ：<http://organaki.exblog.jp>

コンサート運営の為に、みなさまのお気持ちに見合った任意のご寄金をお願いいたします



コンサートシリーズ「名古屋オルガンの秋」はカトリック五反城教会のパイプオルガンが修復されたこと、そして、カトリック五反城教会を創立した神言修道会の来日100周年を記念して2007年に始められ、今年で16年目、開催17回目を迎えます。今までこの「名古屋オルガンの秋」を通して本当にたくさんの出会いとご縁を頂きました。今までご支援下さいましたみなさまに厚く御礼を申し上げます。これからも、「パイプオルガンの楽しさ」と「祈りの音楽による心の響きと幸せ」を名古屋より発信し、多くの方に「調和・ハーモニー」をお届けして参りたいと思っています。

カトリック五反城教会には1978年にドイツ・ケルン市のペーター社によって建築された30ストップの楽器が設置されています。(78年当時は27ストップ、後に3ストップ追加。)音色は70年代に建築されたオルガンの典型的な配合がされていますが、その中には、E. K. レスラーというオルガン学者がペーター社の創立者であるヴィリ・ペーターと共同で開発した非常に珍しいパイプも数種類含まれています。又、整音はクラウス・ヒールシャーという希代の名整音士の手によって仕上げられており、日本にあるパイプオルガンの中でも歴史的な価値の非常に高い楽器だと言えるでしょう。そもそもペーター社はヴィルヘルム・ザウアーというドイツ・ロマン派を代表するオルガン建築家の製作所の支社として設立されました。ザウアーの代表作としては、ライプツィヒの聖トマス教会、ベルリン大聖堂などのパイプオルガンが挙げられます。これらの世界的にも重要な楽器製作者の「孫楽器」が、カトリック五反城教会には設置されているのです。



当時の五反城教会司祭であったドイツ出身の神言会司祭ヨゼフ・トナイク神父はオルガンが設置された1978年に「名古屋オルガン友の会」を創立しました。以来、2001年に解散されるまで名古屋オルガン友の会は数多くのコンサート、又はコンサートシリーズを開催し、名古屋のオルガン文化の重要な担い手として活発な活動を続けていました。その頃は中部地方でも希少なパイプオルガンのうちの一台であったこの楽器を使用し、M.-Cl. アラン、W. ヤーコブ等、世界中から来日した名オルガニスト達がこぞってコンサートを行っています。

名古屋オルガンの秋実行委員会ではこの伝統を受け継ぎ、名古屋を中心に多面的なパイプオルガンの楽しさ、素晴らしさ、教会音楽の心を継続的に伝えていけるように活動をたく考え、「名古屋オルガンの秋」を催します。なるべく多くの方にパイプオルガンという楽器の魅力に触れて頂きたいという方針から、基本的に入場料は設定していませんが、今後の継続的な活動が可能となるよう皆様のご寄金のご協力を心よりお願いいたします。

演奏者



大森マイヤー・ユリカ Yurika Omori-Meyer ソプラノ (11月5日)

作曲家高田三郎とピアニスト高田留奈子の一人娘であるピアニスト高田江里と、作曲家トーマス・マイヤー＝フィービッヒの長女として、ドイツ連邦共和国ノルトライン＝ヴェストファーレン州に生まれ、幼少期に家族で日本に移住し現在に至る。雙葉高等学校卒業。東京音楽大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。故・東敦子、石原良子、照屋江美子、稲垣俊也の各氏に師事。リラの会コンサートに出演。これまでに、高田三郎作曲「啄木短歌集」、モーツァルト作曲「Exsultate Jubilate」、ベッリーニ作曲 オペラ「夢遊病の女」より「Ah! non credea mirarti」、サンティアゴ作曲「Ave Maria」(歌・ピアノ・ヴァイオリンによる三重奏)などを歌う。また、かわさき市民第九合唱団、中央大学音楽研究会混声合唱団など、数々のアマチュア合唱団でドイツ語の発音指導に携わり、分かりやすく実践的な指導を行なってきた。

今回歌う高田三郎作曲「聖母讃歌」は、祖母高田留奈子からは是非歌って欲しいと言われながら、生前の祖母に披露することができず、ようやく祖母との約束を果たす機会に恵まれたものである。



吉田 文
Aya Yoshida

ドイツ・ケルン音楽大学カトリック教会音楽科、並びにパイプオルガン科卒業。A級教会音楽家ドイツ国家資格及びドイツ国家演奏家資格取得。パーダーボルン大聖堂オルガニスト常時代理、ケルン南部司牧地区教会音楽家等を歴任。名古屋オルガンの秋主宰。日本オルガニスト協会会員。名古屋音楽大学、南山大学非常勤講師、南山エクステンションカレッジ、朝日カルチャーセンター講師。平成27年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。令和3年度名古屋市民芸術奨励賞受賞。



トーマス・マイヤー＝フィービッヒ
Thomas Meyer-Fiebig

ドイツ・デトモルト音楽大学作曲科、同大学院作曲課程科卒業。1978年来日。以来、国立音楽大学及び大学院にて作曲科の教授として後進の指導にあたる。ドイツ各地の大学にても特別講義講師としてたびたび招聘されている。作曲家としての活動の傍らオルガニストとしても活発な演奏活動を行っており、1998年にはドイツのエルツ山脈地方ナツサウのジルバーマン製作の歴史的オルガンにてCDを収録した。2015年国立音楽大学退官。国立音楽大学名誉教授の称号を得る。「名古屋オルガンの秋」実行委員。令和元年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。